

科目名	年次	区分	開講期	単位	教育目標・GLO	DP1				DP2		DP3			DP4	DP5	DP6			
						薬剤師としての心構え	患者・生活者本位の視点	コミュニケーション能力	チーム医療への参画	基礎的な科学力	基礎的な理論的能力	地域・医療における実践的能力	研究能力	自己研鑽	教育能力	高度な専門知識・技術の充実に関連する能力	高度な専門知識・技術の充実に関連する能力	高度な専門知識・技術の充実に関連する能力		
実務実習(薬局)	5	必修	前期・後期	10	G10 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。	○	○	○	○		◎	○								
実務実習(病院)	5	必修	前期・後期	10	G10 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。	○	○	○	○		◎	○								
実務実習ポスト教育	5	必修	前期・後期	1	実務実習で体験した内容を他の学生と情報交換することで、学習成果を再確認することを目的に行う。小グループに分かれて、実習で体験したことをテーマにスモールグループディスカッション (SGD) 形式で討議し、その結果を報告して報告会を行う。さらに、実習で体験したことをテーマにポスター発表を行う。発表した内容はレポート (パワーポイント形式) として提出する。SGDおよびポスター発表は、医局・病院とその実習科にいい、それ以外のスカラー教員には参加型学習として参加し、質疑を行う。実務実習後期学習で再確認した基礎知識を、実務実習1、2で応用し実践できることを体験し、その体験を振り返り情報共有することによって理解を深める。	○	○	○	○		○		○	○	○					
漢方処方解析1	5	必修	後期	1	基本的な漢方処方解析をできるようにすることが目標です。 漢方処方解析は「証候診断」、「方証対照」両方であるといわれ、「証」と「処方」が密接につながっています。漢方処方解析とは、そのまま漢方学であり、治療を意味すると考えられます。そのため、証の見方をはじめ、生薬の薬性から処方構成の意義、組み立てる方剤、臨床適応をしっかりと理解していただきます。 本講義では、「陰陽論」の代表処方をはじめ、気血水の循環状態に用いられる処方を中心に解説します。												◎			
救急医療概論	5	必修	後期	1	医療人としての薬剤師にも緊急時の救急救命医療を行う知識が不可欠である。本教科では、救急救命の基本概念、取り扱う疾患や特徴、救急救命薬物の活用や副作用の現状、救急医療の概要、対応法について概説するとともに症例によって解説する。心臓病態「冠動脈疾患、人工呼吸、心臓マッサージ」などの救急での対応や救急医療の現状について学ぶ。症例によって、救急の救急医療やその際の対応、チーム医療の実際を学ぶ。また、災害時の薬剤師の役割や責任についても概説する。												◎			
環境毒性学	5	必修	後期	1	授業の目的と概要 私たちは、生活環境に存在する化学物質、自然毒や食品由来の有害化学物質、また、環境毒を引き起こす環境因子に曝露されている。さらに、地球温暖化による気候変動に伴って、熱帯症による死に事例も増加している。本科目では、特に近年、社会問題となっている環境要因による健康被害や、生命体の動向に関する情報や発見し、予防対策について考える。さらに、アクリルアミド、ニトログロブリンとして、各自課題を設定し、個別に発表・発表してそのフィードバックを得ることにより、公衆衛生の向上に貢献するための薬剤師の役割について考える。本科目で修得する基本的事項は、公衆衛生学「3年次後期」、環境衛生学1「3年次後期」、環境衛生学2「3年次後期」、衛生薬学実習「3年次後期」、衛生薬学実習「4年次後期」で修得し、「健康と環境」に関わる内容に深く関与するためには必要であり、薬学総合実習「4年次後期」の理解や実践の礎となる。 ―学習目標（GLO）― 化学物質をはじめとする環境要因による人体への有害作用を理解し、健康寿命延伸の実現に向けた薬剤師の役割について考える。													◎		

各授業科目の、各DP小項目への貢献度の総和を100としたとき

- ◎ 強く関わる(40以上)
- 関わる(40未満)